

2020年 7月12日礼拝式次第

日本基督教団半田教会  
横山良樹牧師

**招詞** : ヨハネ 3 : 16

神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された。  
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠のいのちを得るため  
である。

**讚美歌** : 21-56番 (主よ、いのちのパンをさき) より3番のみ

主よ、いのちの、聖霊を 送り給え われらに  
語り給え 御言葉、見させ給え みすがた。

**詩篇交読** 125篇

**祈 禱**

わたしたちの救い主、イエス・キリストの父なる神さま。豪雨が続けています。毎年のようにどこかに痛ましい被害が出ています。その原因が地球温暖化にあるのだともいわれます。わたしたちが最終的な責任を考えず、取れないままに積み重ねてきた周囲への振る舞いが、まわりまわってこのような結果をもたらしているのだとしたら、恐ろしいことであります。この世界の管理者として、あなたが、わたくしどもを創造してくださったにも関わらず、欲しいままに全体の調和と一致を顧みずに生きるわたくしどもの見当違いを、主よ、どうかお許してください。そして、わたくしどもを憐れみ、ひとりひとりが御言葉に聴いて、あなたに立ち帰る機会をどうかお与えください。御言葉に聴くことのない世界には安息がありません。真の神を、神として生きるいきる信仰の知恵を、わたくしどもにお示してください。聖霊によって、本日、世界中の教会でもたれる礼拝を祝福し、あなたにむかって、備えられた別の道を変えることの出来る道をお与えください。主のご臨在があきらかにされ、あなたを喜び祝うことを通して、神の民を強め、世に対する証とさせてください。新型コロナウイルス感染症に世界が苦しんでいます。交わりに生きることを本質とするわたしたちの在りようが問われています。わたくしたちに与えられた命を大切にすると同時に、命の問題が、創造主であるあなたの御手の中に置かれていることをも悟らせ、イエス・キリストの十字架と復活の

御業によって、あなたがこの問題を解決して下さっていることを覚えさせてください。どうか御翼の陰にわたしたちを守り、信仰による落ち着きをもって、日々の歩みにいそしむ者とならせてください。今日、この場に集い得なかった者たちの上にも、あなたからの豊かな祝福をお与えください。

この祈り、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

**聖書朗読**：テサロニケの信徒への手紙 3章6～13節

ところで、テモテが、そちらからわたしたちのもとに今帰って来て、あなたがたの信仰と愛について、うれしい知らせを伝えてくれました。また、あなたがたがいつも好意をもってわたしたちを覚えていてくれること、更に、わたしたちがあなたがたにぜひ会いたいと望んでいるように、あなたがたもわたしたちにしきりに会いたがっていることを知らせてくれました。それで、兄弟たち、わたしたちはあらゆる困難と苦難に直面しながらも、あなたがたの信仰によって励まされました。あなたがたが主にしっかり結ばれているなら、今、わたしたちは生きていえるからです。わたしたちは神のみ前で、あなたがたのことで喜びにあふれています。この大きな喜びに対して、どのような感謝を神にささげたらよいでしょうか。顔を合わせて、あなたがたの信仰に必要なものを補いたいと、夜も昼も切に祈っています。どうか、わたしたちの父である神ご自身とわたしたちの主イエスとが、わたしたちにそちらに行く道を開いてくださいますように。どうか、主があなたがたを、お互いの愛と全ての人への愛とで、豊かに満ち溢れさせてくださいますように。わたしたちがあなたがたを愛しているように。そして、わたしたちの主イエスが、ご自身に属するすべての聖なる者たちと共に来られるとき、あなたがたの心を強め、わたしたちの父である神の御前で、聖なる、非の打ちどころのない者としてくださるように。アーメン。

**讚美歌**： 21-280番「まぶねのなかに」（3・4番）

**説教**： 「人生に送るエール」

いまわたしたちが読み進めているパウロの手紙、テサロニケの信徒への手紙は紀元 50 年頃に書かれたと言われ、新約聖書に収められている 27 の文書の中で時代の特定できるもっとも古いものです。福音書が現在のかたちに整えられるのはもっと後のことです。イエスさまの十字架が 30 歳ごろだと考えれば、それから 20 年後くらいのことです。その間に福音は、エルサレムから地中海沿岸のシリアを経て、現在のトルコから海峡を渡ってギリシアに入りました。すなわちヨーロッパに伝えられたのです。テサロニケは、フィリピに続くヨーロッパ第二の伝道地で、当時ローマ帝国の行政管区ではマケドニア州の都にあたる大きな町でした。フィリピとテサロニケは距離にすると名古屋と京都くらいの感じです。このテサロニケに福音を伝えた結果、生まれた群れがこの手紙の受取人たちとなります。

今朝、ご一緒に読みました箇所は、先週からの続きのところで、パウロが、テサロニケを訪問したいと願っているけれども果たせない。なんとかあなたがたの顔が見たい、会って励ましたい、あなたがたが孤児（みなしご）のような状態になっていないか。パウロたちがユダヤ人から迫害を受けたように、あなたがたも福音を受け入れたことによって同胞から迫害を受けて弱り果てているのではないか、もしかして信仰から離れてしまう者たちもいるのではないか、現在のように電話や、ラインや、スカイプで相手の状態が分かるという時代ではありません。人づてでなければ情報は入りません。彼らのことが心配でたまらず、この時、コリントに滞在していたパウロは、アテネにいた弟子のテモテをテサロニケに派遣することにし、そのテモテが嬉しいニュースをもって、パウロのところにやってきた。そこで、彼らの様子を聞いて喜び、彼らを励ますとともに、彼らの悩みが何であるかを知ったパウロは、この手紙を書いて疑問に答えているのです。この手紙が書かれたきっかけはテモテの報告にありました。

テサロニケの人々の様子を聞いて、パウロはちょっと強い言い方をすると舞い上がってしまっています。6 節に、「今帰って来て、あなたがたの信仰と愛について、嬉しい知らせを伝えてくれました」とあります。この嬉しい知らせの内容は、テサロニケの人々が苦難のなかにあっても信仰と愛に生きていること、またパウロたちがぜひ会いたいと願っているのと同じように、彼らもパウロたちにしきりに会いたがっていると、つまり、互いに同じ思いでいるということを知って喜んでいる。彼らは離れていても同じ方向を見ているのです。これは嬉しいでしょう。この 6 節で用いられている「嬉しい知らせを伝えて」という動詞は、別の箇所では「福音を告げ知らせる」と訳され

ている言葉です。つまり、イエスがキリストである。あなたの救い主であるという嬉しい知らせ、よき音づれを受け入れた者たちが、信仰と愛に生きて、同じ信仰を持つ者たちと共に生きる群れを形作ろうとしていことが、周囲に対する大変素晴らしい知らせ、つまり福音となっている。福音が伝えられ、山彦のように福音の響きが返ってきた。神の力が、生ける神の働きがここに明らかにされている。人々を愛において結び合わせる力、喜びで満たす力、苦難の中にあってもくじけない、折れない生き方と励ましあう信仰の仲間をもつ喜びがここにあります。このことを知って、パウロは、ああ、生きていた甲斐があった、神さま、有難うございます、彼らを守って下さって！と大喜びをしているのです。その個所をもう一度読んでみましょう。7 節以下。「兄弟姉妹たち、わたしたちはあらゆる困難と苦難に直面しながらも、あなたがたの信仰によって励まされました。あなたがたが、主にしっかり結ばれているなら、今、わたしたちは生きていけると言えるのです」このように喜びをあらわにしています。

先週もふれましたが、この手紙を読んでいますと約 2 千年の隔たりがありますのに、コロナウィルス感染症対策によって、三密を避け、不要不急の外出を避けましょうの掛け声のもとに礼拝に集うことが難しかった 4 か月ほどのことを思い、パウロに共感がわきます。あなたがたの顔が見たい、どのように過ごしているかを知りたい、顔をあわせて、あなたがたの信仰に必要なものを補いたい、パウロ自身は何度も計画したけれどもかなわなかったために、テモテを派遣して報告を受け、いま彼らにあてて牧会の手紙を書いている。それ以外に手段のない時代です。今は、オンラインで様々なサービスが利用できますから、コロナウィルス感染症対策のため、都市部の教会では YouTube などに編集した礼拝の様子をあげたり、わたしたちの教会ではスマホの line 通話で礼拝の音声を流したり、今も行っていますがホームページの教会員の頁に礼拝式を丸ごと載せて補っています。「半田の信徒への手紙」とパウロに倣って祈りの課題を祈りの手引きとともに送信したりもしました。

こういう支援をいつまで続けたらいいか、それが礼拝や信仰生活の養いにどのようなになるか、検証が必要な部分もあるのですが、見切り発車のようなかたちで、それぞれの教会が事態に対応してきた数か月です。

じつは先週の木曜に婦人会の例会が 4 か月ぶりに再開され、その時に参加した婦人たちにこの数か月の信仰生活と教会のサポートの仕方について伺いました。皆さん、述べて下さった意見の中で、ステイホームでありながら様々な工夫によって教会とつながっている感覚が維持されたのは感謝だったとい

う言葉がありました。またとても嬉しかった反面、この都合よく聴ける礼拝に慣れるのが怖い。またなんで沁みないんだろう。実際に参加してライブで聴く肉声と何が違うのか、心の中で、もやもやしているという感想もありました。この違和感は大切で、わたしは問題の本質をよく掴んでおられると思いました。一言でいってしまえば、わたしたちは群れで生きているのです。わたしの信仰は、わたしたちの信仰によって支えられているのです。個室カプセルのようなあり方は信仰の本質にそぐわない。イエスさまは「ふたり、または三人が、わたしの名によって集まる時、そこにわたしもいるのである」と約束されました。わたしの信仰は群れの信仰や伝統、そこで培われた敬虔さ、つまり信仰共同体の信仰に育まれて育つのです。この習慣によって養われてきた信仰の感性が、礼拝という神の民の共同の業が、個別に、コンビニエンスに届けられることに対して違和感を覚えているのだと思います。わたしは、わたしの信仰を支えるのに、信仰を同じくする兄弟姉妹の賛美の声を必要としています。その場において祈りを共にし、アーメンと唱和する声を必要としています。イスラエルにおいて礼拝は御顔を仰ぐことと表現されます。顔と顔を合わせてみるのです。そして呼び掛けられます。また神さまとイスラエルの関係、つまり、神と神の民の関係は、羊飼いと羊の群れの関係で語られているのも重要です。もし一匹になってしまったら、それは群れに連れ帰られるべき存在として取り扱われているのは、皆さんもご存じのとおりです。人間は「人の間」に生きることを本質とします。ましてキリストを主と仰ぐ信仰者は、羊飼いの声に聴き従い、身を寄せ合って生きることを本質とするのです。さまざまな困難、病の現実や、老いることや、理解されないこと、傷つけあってしまうこと、間違いを犯すこと、そうしたことからわたしたちは自由ではありませんが、羊のために命を懸けて下さる良い羊飼いであるキリストに導かれて群れで生きるスタイル。先立つ神の御子に導かれて、世の間、時の間を生きながら御国を目指して旅をする民、それが教会のあり方なのだパウロは教えているのです。テモテから、テサロニケの人々の様子を聞いて喜んでいるパウロの姿を見て思います。同じ信仰に生きる者の成長が自分の喜びとなる幸い。互いに心を寄せ合い、配慮しあう幸い。世の中が自分を喜ばせ、他人を自分に仕えさせようとするのとは違って、キリストに倣い、自分の利益を第一とするのではない開かれた生き方にパウロは生きている。感謝を、神にささげる閉じていない生き方、他者に向かって開かれ、天に向かって開かれた生き方をしている。それは人口 70 億を超えた人類が、昨今、内向きに、自分たちの権益を守るために門戸を閉ざし、他者を排除し、

困り込もうとする方向とは逆のベクトルです。神を仰ぐことを失った人間は、人と人とのつながりを喜べなくなります。それを糺す軸をも失ってしまいます。今、神と人を結んで生きる者たち、人と人が結ばれて生きることを喜ぶ者たちの群れが必要とされています。神ご自身が、そのような者たちを必要とし、求めておられる。神さまとのつながりを見失った人間に、神さまは、愛する独り子イエスを贈ってくださいました。地上に来られたイエス・キリストは、わたしたちの真実の友として歩み、十字架にその命をささげてくださいました。イエス様はそのように生きて、死なれ、わたくしたちに対する変わらぬ愛を示して下さいました。ここにわたしたちの群れの交わりの基礎が据えられています。主がそのように生きて下さったからこそ、わたしたちも分かち合いと、ゆずりあいと、学びあいを恐れない人格として生きることを志す。主が、ご自身に属するすべての者をお守りくださるのです。わたしたちはこの福音に聴き従い、喜び合い、歩みを整えて御国を目指す群れであります。

お祈りをいたします。

神さま、暗い夜の間も守られて、週の旅路を歩んだわたしたちを一つの群れとしてくださったことを感謝します。どうか、わたしたちの父である神ご自身と、わたしたちの主イエスとが、わたしたちの行く道を整えてくださいますように。どうか、主が、わたしたちを、お互いの愛と全ての人への愛とで豊かに満ち溢れさせてくださいますように。そして、わたしたちの救い主イエスが、ご自身に属するすべての聖なる者たちと共に来られる時、わたしたちの心を強め、父である神の御前に、非の打ちどころのない者としてくださいますように。

この願い、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

讚美歌 21-460 「やさしき道しるべの」(2番)

洗礼式(第二礼拝)

受洗者 飯塚昂大

献 金

報 告

添付の週報をご覧ください

祈 禱

主の御名が崇められるように。コロナウィルス感染症対策  
下で、医療・介護・福祉に従事する方たちのために、とも  
に礼拝をささげる日が与えられるように。今日、新しく生  
まれ、神の民に加えられた者のために。

主の祈り

天にまします我らの父よ  
ねがわくば御名をあげさせたまえ  
御国を来たさせたまえ  
御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ  
我らに罪を犯す者を 我らがゆるすごとく  
我らの罪をも ゆるしたまえ  
我らを試みにあわせず 悪より救い出したまえ  
国と力と栄とは 限りなく汝のものなればなり

アーメン

祝 禱

主イエス・キリストの恵みと、  
父なる神の愛と  
聖霊との親しき御交わりが  
主の恵みのご支配を信じてこの世を生き抜く  
あなたがた一同の上に、とこしえにあるように。

アーメン！